

令和7年度第2回水産市場再整備基本構想検討会議 会議録

日 時：令和7年（2025年）8月22日（金）午後1時30分から午後3時00分

場 所：小田原市公設水産地方卸売市場 水産海浜課会議室

出席者：別紙名簿のとおり

事務局：内田課長、内田係長、秋山主事

受託者：種市、喜井

事務局である水産海浜課内田課長の進行により、第2回水産市場再整備基本構想検討会議が開会された。

冒頭、内田課長からの挨拶に引き続き、配付資料の確認が行われた。

以降、中川委員長に進行役をお願いした上で、次第に沿って、下記の通り議論が進められた。

【議題】

1 議題（1）目指すべき姿及びコンセプトについて

内田係長から資料説明の後、質疑・意見等の確認が行われた。

<主な意見等>

市川委員

- ・最近の市場整備に係るコスト高という面もあり、「コンパクトな市場」へ方向性を向けることも理解できるが、消費拠点市場として市民に水産物を安定供給する役割の視点が弱いように感じる。

中川委員長

- ・市場審議会の中で市場再整備の話が始まった頃から、小田原市の地方卸売市場には「産地市場」「消費地市場」として2つの側面を持っていると認識している。これに「賑わい」の視点が加わったように思う。各地の産地市場や卸売市場では観光客が多く消費するようになったこともあり、財源として無視できない状態にあることが議論に入ってきたことも分かりにくくしている1つ。産地市場かつ消費地市場という特性を生かしながら拠点市場としてどのように整理していくのかがスタートラインになる。加えて、観光客が市場に興味を持って、水産物の取引を知っていただき、透明性を観光と結び付けることができれば卸売市場としてアピールすることにつながると思う。

萩野委員

- ・「適正な市場取引」とあるが、適正なというのは市場のルールを作ることなのか。今のルールを踏襲することなのか、新たな意味が加わるのか。最近の災害等のこともあるが、近代化という表現が曖昧でわかりづらいのではないかと。

中川委員長

- ・「適正な市場取引」ということだが、ある一時点でとまって考えるのは、日々の変化が目まぐるしく難しくなっている。例えば、八戸市では陸送品が多く、帳簿上では取引が

多く存在するが市場には現物がほとんどなく閑散としている。先ほどもあったが、観光客が閑散とした市場を見たときに「ここの市場は適正な市場取引をしているのか」と聞かれたらかなりの説明を要することになる。その中にコロナウイルスや津波等の自然災害のリスクも切り離せない。自然災害等が発生したときに市場取引をどのように続けていくか、リスク管理を事前に整理して検討しておくことも適正な取引の根幹になる。リスク管理には費用もかかるが、その中で利益を出さなければならない。

- ・ただし、小田原市では公設市場のため、整備に当たっては税金が投入される。公益性を保ちながら利益を上げることを「適正な取引」と示しているのではないか。
- ・技術的な問題もある。A I等の技術革新を取り入れる受発注システムを使用することで、在庫情報がメーカー（工場）と卸売人、カスタマー（買受人）の間で発注情報をネットワークで共有できる。新しい技術条件を市場に入れるのかどうかもポイント。
- ・技術や衛生、安全を管理することも必要な反面、コストがかかる。そのようなコストも市場取引の価格に上乗せするのか。技術革新に伴っていかにあるべき姿を追求できるかが求められるのではないか。これらを称して「適正」「近代化」と表現できるのではないか。
- ・5つの柱については、但し書きのような形でもいいと思うが、もう少しわかりやすい表現になるように審議会等で検討してもよいと思う。

高橋委員

- ・生産者という立場から見ると、この5つの柱では生産しやすい市場という視点がどの程度考慮されているのかわからない。生産者の視点から見ると、市場や水揚げ場は広い方が良く、船をつける位置も多い方が良い。公設市場であり、適切な規模でコンパクトな市場とする意見も理解できるが、生産者の要望とは反しているものになる。
- ・小田原魚市場（小田原漁港）は魚が水揚げされる産地であることをアピールするにはこの5つでは弱いと感じる。地魚が生産されていることをどのくらい意識しているのか。時代の流れで冷凍品や養殖の魚が増え、地物の割合が少なくなることは理解しているが、生産されていることをアピールするには薄く、寂しい。

中川委員長

- ・小田原漁港は第三種漁港であり、県外船も受け入れる必要がある漁港で、今後は品ぞろえを確保していかななくてはならない。卸売人としても県外船を受け入れて商品の取扱量を増やすことも戦略の一つとして考えていることだと思う。
- ・一方で、小田原は値の付く、品ぞろえのある市場として存続できるのか、それには生産者の出荷がある程度保証されていないといけない。今後10年、20年先に、現在多くの割合を占める定置網の水揚げがどのくらい品ぞろえを確保できるのか等、展望も欲しい。漁港における市場デザインを行う上で、取扱数量や品目の情報を考慮することも重要。

2 議題（2）施設規模及び施設配置イメージについて

内田係長から資料説明の後、質疑・意見等の確認が行われ、次の通り議論があった。

＜主な意見等＞

中川委員長

- ・荷の流れは図で言うと、上から下に一方向に流れる形になる。冷凍・冷蔵品は別の流れになるが、活魚など岸壁から水揚げされたものについてはダンベに入れていくと思うが、ダンベの中身は雑多なものなのか。また、荷さばき所のところに並べられ、取引は入札か、セリか。

石田委員

- ・多くは定置からの水揚げで、選別された状態でダンベに入れる。取引は基本的にセリ。

中川委員長

- ・売場での荷の滞在時間はどのくらいか。市場内に滞留する時間で魚の鮮度も変わるため、短いに越したことはない。増し氷など氷の使用によるコストにも関わってくる。コールドチェーンで品質を保つためにもある程度の温度管理も必要。そうした中でリードタイムを可能な限り短くしたい。荷さばき所の中で1業者がどのくらいの面積・時間を占有するのか、荷さばき所内の管理を誰がするのかなど含め、検討する必要がある。

市川委員

- ・取扱い時刻は現状、3時ごろに市場に船が入り、漁師が10 kgの発泡スチロールに分けて陳列し、セリが6時頃から始まっている。トラックが着くのが8時頃だが、セリの後に10 kgのものを2 kgずつ5箱に分けてから出荷をしている。3時に入ったものは出荷までに氷が溶けてしまい、増氷しながらコールドチェーンを保っている。

中川委員長

- ・流れを変える議論をしていかなければならない。現状維持でいくのかスタンスを知りたい。皆さんの作業ストレス及びコストをなるべく極小化していく形に、商品の値段が正当な形でつくられる形のものを仕上げるための売り場を設計すべき。

市川委員

- ・地魚に加え、冷凍品や塩干品等取り扱いがあるが、今後、まぐろや冷凍品等を考慮した施設整備となるのか。何も整備しないとすると、安全・安心の供給から遠ざかるのではないか。

稲村委員

- ・市場内の売場計画については、これから検討していくこととしており、塩干冷凍品などの売場を無くすと決定したわけではない。

中川委員長

- ・冷凍塩干品はどの市場にもあるので必要になるのではないか。冷凍塩干品の中で大物はあるのか。取扱量は多いのか。

市川委員

- ・大物もあるが、取り扱いは多くない。

中川委員長

- ・温度帯管理が必要な商品があることも認識したうえで、市場規模をどのくらいに設定するのか検討を進めるべき。

市川委員

- ・現在の取扱高約 80 億円のうち鮮魚が 40～50 億円、塩干・加工品及び貝類が 30～40 億円あるということを踏まえ、検討の入り口で無くさないでいただきたい。

中川委員長

- ・検討を進める中で、いずれ副産物廃棄処分の流れについても検討する必要がある。別の市場では発泡スチロールの処理方法についても問題として出てきている。

3 その他（１）漁港における衛生管理の概要について

漁村総研から資料説明の後、質疑・意見等の確認が行われ、次の通り議論があった。

<主な意見等>

中川委員長

- ・ゾーニングがまずは重要。市場を整備するうえで最低限の決まりは市場に関わる全ての人に関係することであり、理解が不可避である。
- ・コンテナがあると思うが、通いコンテナ等が入っているのか。

漁村総研

- ・衛生管理の観点で一時期そのような議論があったが、あまり定着せずにいる。

中川委員長

- ・一度使ったコンテナが洗浄されずそのまま使用されているということが割と行われている。物流業界では最近、業者に洗浄もお願いし、市場ではきれいなものを定期的に配送してもらい、使用後は業者が回収するということがあるが、この仕組みにもコストが掛かり、そのような問題も課題となる。
- ・フォークリフトについて、衛生管理エリアと非衛生管理エリアで分けなくてはならないのか。

漁村総研

- ・一般的には場内では空気の入替わりが外ほどよくないので排気ガスを出さないフォークリフトの使用が基本とされている。また、道路（場外）を走っているものと場内（洗浄されているエリア）で分けることが原則。ただし、やむを得ず分けることが難しい場合はあまり推奨されないがタイヤ等の洗浄工程を設けることで認められる場合がある。場外のフォークリフトは空気の入替わりがあるためエンジン式の利用も可能。

中川委員長

- ・取引先（小売業者）や量販店への説明責任の際、トレーサビリティができないとは言えない。衛生管理を含め、管理を行っていることをアピールし、見せることも観光資源や価値にもつながると考える。

最後に、内田課長から以下のコメントがあり、本部会を終了した。

中川委員長はじめ委員の皆様、ありがとうございました。委員の皆様に情報共有させていただきます。

今後、9月末から10月上旬を予定しております、小田原市卸売市場審議会水産部会にて本会議での検討状況を報告させていただきます。

また、次回の会議開催は10月下旬頃を予定しております。

これで第2回水産市場再整備基本構想検討会議を終了します。本日は、ありがとうございました。

以上